

第1学年 国語科学習指導案

1組 計22人 (男子8人, 女子14人)

指導者 横濱 智子

1 単元 本とともにだちになろう (教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」光村1年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、これまでに「おむすびころりん」や「大きなかぶ」、「くじらぐも」の学習を通して、話の展開や内容の大体を読み取ったり、登場人物の心情や場面の様子を想像を膨らませながら読んだりする活動をしてきている。

そこでここでは、愛犬と主人公の心の触れ合いを描いた物語を、友達との交流を通して読み味わい、さらには、読みたい本を見つけて紹介したり、易しい読み物を自ら進んで読んだりしようとする態度を育てることをねらいとした単元を設定した。

教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、小さい頃から共に育ち、成長してきた、愛犬「エルフ」と主人公「ぼく」との心の交流を中心として、そこに満ちている深い愛、命の慈しみを描いた物語である。この期の子どもたちは、生き物をかわいい、かっこいい等、興味のある存在として受け止めていることは多いが、その生死についてまでは、深く考える経験をあまりしてきていない。そのため、この作品に触れさせること自体に意味がある。また、「ぼく」の思いを想像しながら読み深めていけるような挿絵も多く、自らがお話の世界に浸って味わうことに適した教材である。

本単元で子どもたちは、物語のおもしろさや好きなどころについて話し合ったり、紹介し合ったりすることで、多様な意見や考え方に触れ、易しい読み物を読み味わう楽しさを感じることができる。また、「ぼく」が読者に語りかけるような文章で書かれており、子どもたちが、「ぼく」になりきって物語を読み進めることで、内容を理解しやすくなり、想像を膨らませて読むことができる。更には、動物が出てくるお話や動物と人間との触れ合いを描いた本のコーナーを教室の一角に設置し、子どもたちが自由に読むことができるような読書環境をつくることで、本に自然と親しむようになると考える。

ここでの学習は、3月教材「たぬきの糸車」の中で、この一年の読書生活を振り返り、これまで読んできたいろいろなジャンルの本の中から、お薦めの本を友達と紹介し合う学習へと発展していく。

(2) 単元の目標

- | | |
|---|----------------|
| ○ 読んだ本の好きなどころについて意欲的に話し合ったり、進んで易しい読み物を読もうとしたりしている。 | 【国語への関心・意欲・態度】 |
| ○ 読んだ本の好きなどころを友達や周囲の人に分かりやすく紹介したり、友達の本の紹介を聞いたりすることができる。 | 【話す・聞く能力】 |
| ○ 読んだ本の好きなどころや、自分が感じたことを紹介カード等を書くことができる。 | 【書く能力】 |
| ○ 挿絵と文章を対応させながら、本の内容の大体をとらえ、想像を広げながら読むことができる。 | |
| ○ 易しい読み物を読み、自分の好きなどころを見つけたり、感想をもったりすることができる。 | 【読む能力】 |

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、これまでの学習の中で、想像を広げながら読んだことを絵本にまとめたり、問いと答えの関係を読み取ってクイズを作ったり、場面の様子を考えながら読み味わったことを音読劇で発表したりする等の活動を通して、目的をもち意欲的に読むことの楽しさを味わってきている。また、学習したことを誰かに伝え、感想を交流することの喜びについて

も味わってきている。

家庭学習に、音読や親子読書を取り入れ、続けてきたことで、長い文章を読むことへの抵抗は軽減されつつあるが、個人差が大きく、読み取るための手立てが必要な子どももいる。

イ 本単元の内容に関わる実態

① 本を読むことは、好きですか。
好き (18) ・楽しいから (12) ・いろいろなことがわかるから (5) ・わくわくするから (3) ・お母さんや友達と読めるから (2) ・いい気持ちになるから (1) きらい (4) ・意味が分からないから (2) ・字を読むのがいやだから (2)
② 図書室で読んだ本の中で、一番好きな本は何ですか。(理由)
・物語 (11) ・クイズ・なぞなぞ (5) ・図鑑 (4) ・その他 (2) (理由) ・話の内容が楽しい (7) ・写真や絵が楽しい (5) ・話を予想するのが楽しい (3) ・クイズやなぞなぞの答えを考えるのが楽しい (5) ・無答 (2)
③ 自分の好きな本を誰かに紹介するとき、どんな方法で伝えますか。
・本を見せる ・どんなお話か話す ・一緒に読む ・読書交換日記に書く ・手紙を書く
④ 生き物を飼った経験がありますか。(種類)
ある (18) ・ハムスター (3) ・猫 (3) ・犬 (2) ・インコ (2) ・昆虫 (15)

読書については、入学当初から、教師や親子読書会による読み聞かせや、朝の読書を続けてきたことで、易しい読み物に触れ、楽しんで読書をしようとする態度が身に付きつつある。また、図書室の本を友達同士で紹介し合ったり、一緒に読んだりする姿も見られるようになってきている。読書は楽しいと感じている子どもが多いが、自分の読みたい本をなかなか見つけることができなかったり、図鑑やシリーズ物、間違い探し等、同じジャンルの本だけを選んで読んでいたりする姿もみられる。また、読み聞かせは好むが、自分で文章をじっくり読み進めることが身に付いておらず、挿絵だけで話の筋を追っている子どももいる。

生き物についての実態は、飼育の経験はどの子どももあるが、マンション等でも飼育できる昆虫や小動物がほとんどである。また、自分で最後まで世話をした経験のある子どもはほとんどおらず、初めは興味をもっているが、途中で飽きてしまうという実態がみられる。飼育することには、命の責任が伴うことを十分理解することはまだ難しい段階である。

4 指導に当たって

本単元の指導にあたっては、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように、以下のような点に留意して指導していく。

「つかむ」過程では、本と友達になって、自分の好きなところを紹介するという単元の目的をはっきりつかむために、親子読書会の方の協力をもらい、好きな本の紹介をしていただく。そのことを通して、紹介の方法がいろいろあることを知り、自分も読んでみたい、友達に紹介してみたいなという思いをもつことができるようにする。

「深める」過程では、子どもたちが、長い文章をより深く読み味わうことができるようにするために、通読はせず、物語を大きく三つの場面に分け、先を予想しながら読んだり、すでに読み取ったことと、今読んでいる読みとを関係付けたりしながら読み進めていく。その際、自分が感じたことを友達と交流しながら読み、互いの感じ方のよさに気付くことができるようにする。また、生き物をかわいい、かっこいい等の興味の対象としての見方から、命ある大切な存在として実感することができるようにするために、飼っていた犬の死を家族で見守った子どもの体験談を取り入れたり、1年生が書いた動物愛護の作文を読んだりして考えるようにする。

「味わう・高める」過程では、本屋になるという設定にすることで、子どもたちの活動意欲を高めることができるようにする。その中で、自分のお薦めの本のおもしろさを家族や友達にするという目的意識や相手意識をもちながら意欲的に学習に取り組むことができるようにする。

「まとめる・広げる」過程では、本屋で子どもたちが紹介する本を、これからの読書生活に生かすことができるようにするために、ブックリストを作成し、読んでみたい本をチェックしたり、感想を書き込んだりできるようにする。

4 指導計画（全9時間）

●は研究の視点に関する内容（①は視点1，②は視点2）

は評価項目及び評価方法

過程	時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
つ か ま 深 め る 味 高 め る ま 広 げ め る	1	1 親子読書会のお母さん方のお気に入り本の紹介や、読み聞かせを聞く。 2 単元の学習のめあてをつかむ。 自分の大好きな本をみんなに紹介する、1の1本屋さんを開こう。	① 子どもたちの身近な存在である親子読書会のお母さん方に協力をもらい、様々なジャンルの本を紹介してもらうことで、「読んでみたい。」「紹介してみたい。」という思いをもつことができるようにする。 ② 単元全体の学習のめあてを明確にすることで、何のために教材を読むのかという目的意識をはっきりつかむことができるようにする。
	4 (本時2/4)	3 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を場面毎に読み、話し合う。 ○ エルフの紹介と「ぼく」とエルフの成長の様子 ○ エルフの老いと死 ○ エルフの死から後の「ぼく」 4 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の全文を読み、自分の一番好きなどころを紹介し合う。	自分ののお気に入りの本を紹介したいという意欲を高め、進んで読もうとしているか。(読)【読への関心・読・読】 ○ 全文を通読せず、場面毎に文章や挿絵を提示しながら読み進めていくことで、次の場面を想像したり、これまで学習したこととを結びつけたりしながら、豊かに読み味わうことができるようにする。 ② 場面毎の学習では、子どもたちが、読み取りながら自由に線を引いたり、書き込んだりできるような、ワークシートと一体化した資料を活用する。そのことで、文章や挿絵を手がかりに、自分の読みを深め、どの子どもも自信をもって自分の考えを交流することができるようにする。
	2	5 これまで自分が読んだ本の中から、紹介したいお薦めの一冊を決めて、開店の準備をする。 ○ 読書ファイルの活用 ○ 紹介カードや紹介に使う物の準備 ○ 分かりやすい紹介の練習	挿絵と文章を対応させたり、読み取ったことと結びつけたりしながら想像を広げて読み、自分の感想をもつことができたか。(ワークシート・発表)【読む能力】 ② 場面毎に読み味わった後に全文を音読することで、物語全体を豊かに味わい、どの子どもも自分の一番好きなどころを紹介することができるようにする。 ○ お薦めの本を決める際には、これまでの読書記録や貸し出しカード等を活用することで、自分の読書生活を振り返ることができるようにする。 ○ 好きなどころを紹介するときの視点を明確にすることで、紹介するための文章を整理しながら書くことができるようにする。
	2	6 友達同士で本屋を開店し、感想を交流したり、読んでみたい本を探してメモしたりする。 7 おうちの人を招待して、本屋を開店し、自分のお薦めの本のいいところを分かりやすく紹介する。	自分が紹介したい本の好きなどころを、紹介文に書いてまとめることができる。 (紹介カード)【書くこと】 ② 紹介する本のブックリストを作成し、本屋の紹介に活用することで、自分の読んでみたい本をチェックしたり、感想を書き込んだりしながら聞くことができるようにする。 友達の本の紹介を聞いて、読んでみたい本をチェックしたり、自分の薦める本のいいところを分かりやすく伝えたりすることができたか。 (ブックリスト、発表)【話す・聞く能力】

5 本時 (3/9)

(1) 目標
(2) 展開

挿絵や文章を手がかりに、「ぼく」とエルフの様子を想像しながら読むことができる。

教師の言葉かけ 予想される子どもの反応
●は、研究の視点に基づく指導・支援 (①は視点1, ②は視点2)

評価項目

◆評価項目を受けての指導

時間(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つかむ(8)	1 前時までの学習を想起する。 前の時間にどんな場面の学習をしましたか。 ・「ぼく」が、エルフを天好きだとわかる所を探したよ。たくさん見つかったよ。 ・世界で一番すばらしい犬だと書いていたね。 今日は、昨日の続きを読んでいきます。「ぼく」とエルフはどうなっていくのでしょうかね。 ・エルフと仲良くしたことがたくさん書いているのかな。 ・早く読んでみたいね。 2 「ときがたって」という言葉について考える。 3 学習課題を話し合う。 ときがたって、「ぼく」は、エルフのことをどのように思っているのだろうか。	○ 前時に学習した挿絵や文、ワークシート等を振り返ることで、「ぼく」のエルフに対する愛情を想起することができるようにする。 ○ 本時で学習する場面の展開を想像することで、早く読んでみたいという意欲をもつことができるようにする。 ① 前時で学習したことや挿絵をもとに、「ときがたって」の言葉を考えることで、そこから時間が経ったことやエルフやぼくの様子も変わっていることを想像することができるようにする。
深める(22)	4 エルフの老いの場面の読み聞かせを聞き、前時と変わったところについて考える。 【○音読 ○一人読み (一人調べ) ○全体での話し合い】 ときがたって「ぼく」やエルフが、変わったところはないかな。 ・エルフはどんどん太っている。 ・元気なときの絵と全然違うよ。「動きたくない。」って言ってるみたい。 エルフは、散歩を嫌がって、寝ていることが多くなったよ。 ・ぼくは、背がぐんぐん伸びている。 ・エルフのことを心配しているよ。 5 「ぼく」がエルフにしていることを通して、年老いたエルフへの思いについて話し合う。 【○音読 ○一人読み (一人調べ) ○全体での話し合い】 「ぼく」は、エルフに、どんなことをしてあげたのかな。 ・獣医さんに連れて行ったり、やわらかい枕をあげたりしたよ。 階段を一緒に上った。「ぼく」が守るって言ったのかな。 ・枕は前、エルフが「ぼく」にしてくれたよ。きつとお返しだね。 「ずうっと、天好きだよ。」って毎晩言ったよ。前は、言えなかったね。 エルフがとしをとっても、「ぼく」は、やっぱりエルフが天好きなんだ。	② 文章や挿絵をもとに、子ども自らが、線を引いたり、書き込んだり、吹き出しを付けたりしながら読みと、自分で読みや思いを大事にできるようにする。その際、一人読みの時間を十分に確保する。
高めよう(10) 広げよう(5)	6 今日学習した場面を振り返りながら、教師と一緒に音読する。 7 年老いた犬を大切に育てている友達の作文を聞く。 8 本時の学習を振り返り、次時の学習について確認する。 次はどうなるのかな。エルフと「ぼく」は、きつと次も仲良かったね。	◆ 挿絵や文章を手がかりに、「ぼく」とエルフの様子を想像しながら読むことができたか。(ワークシート・発表)【読む能力】 ◆ 挿絵や文章を手がかりに、線を引いたり、書き込みをしたりしながら読み進めることができる子ども → 吹き出しを効果的に生かすことで、子どもたちが「ぼく」になりきり、「ぼく」の言葉を使うようにする。 ◆ どのように読み進めたらよいのか、戸惑っている子ども → 挿絵や文章をもとに、話の筋をつかませ、「ぼく」の思いを教師と一緒に想像し、吹き出しに書くことができるようにする。 ② 年老いた犬を大切に育てている子どもの作文(動物愛護作文集)を聞くことで、本時で読み深めてきた「ぼく」の思いを、より身近なものとして受け止めることができるようにする。 ○ これまで読み味わったことを振り返りながら、次時を予想しながら、意欲を高めて終わるようにする。